

山田先生へのインタビュー＋雑談

2022年8月4日

愛知学院大学 経営学部 3年 伊藤基克

私が質問したのは2つだ。

1つ目は東寺町に妖怪がいるのだろうかということだ。これについての答えは少ないという答えだった。その理由は主に2つあった。1つは単純に名古屋に妖怪が少ないという理由だ。それがなぜかという妖怪がいる場所は山田先生が言うには自由な場所だからだ。名古屋には規則や風習があり、縛られており、不自由だ。その例として名古屋人が手土産を好むことを言っていたり、名古屋の道路の広さの話をしていたりなどがあった。もう1つは寺と妖怪はあまり関係がないと話していたことだ。寺と妖怪は一見密接に関係していそうだが関係していないそう。では何と妖怪は密接に関係しているだろうかと考えた。それは歴史やその地域の風習や地盤などが関係しているそう。しかし、山田先生の作品ではそのような客観的視点での情報も参考にしているが主には山田先生自身の主観的なその時の気持ちに関係しているそう。

2つ目は山田さんが最初から最後まで話していた性や恋愛などの話は芸術の創造の場面で何か関係があるのかということだ。答えはないという答えだった。その後、話して頂いた話では性や恋愛の話は死の恐怖から逃げるための手段だと言っていた。山田先生は小学5年生の頃から死への恐怖があるという。その恐怖心が強いことが絵に表れ、作家として評価されているのではないかと考えた。そのことを考えると山田先生の作品のすべてが死に怯えているように思えた。



このように私が考えた質問は2つとも的外れだったが得られたものがあった。私が考えた山田先生の最大の魅力は死の恐怖心だ。しかし、その恐怖心にはデメリットがある。その部分を抑えたのが性、恋愛だったのだ。

雑談の中で私が疑問に思ったが聞けなかったことが1つある。それは山田先生が創造を重要視しているが弟子たちの創造を重要視していないことだ。これは予想の話だが芸術において1番重要なことはアイデアなのだろうと考えた。そして良いアイデアはそう簡単にたくさんの方が出せないということが導き出された。よって、芸術とはどれだけ絵がうまかろうと創造が出来なければ評価されないということが分かったのだ。